

第12号

山梨大学 教育人間科学部
附属教育実践総合センター

ニュース

目 次

I 教員養成の課題と教育実践総合センター

…………… 教育人間科学部長・センター長事務取扱 井上 範夫 …… 1

II 附属教育実践総合センターへの期待 …… 前附属教育実践総合センター長 原田 博 …… 2

III 平成15年度の教育フォーラムについて …… 実践教育運営委員会委員長 金子 修一 …… 3

IV 教育フォーラムによせて …… 附属教育実践総合センター客員教授 五味 武彦 …… 4

V 平成15年度 第1回期間採用者研修 …… 附属教育実践総合センター 鳥海 順子 …… 5

VI 実践教育運営委員会「共同研究会」平成15年度報告

…………… 附属教育実践総合センター 鳥海 順子 …… 7

VII 平成15年度教育実践研究部門事業報告 …… 附属教育実践総合センター 林 尚示 …… 8

VIII 平成15年度情報教育研究部門事業報告

…………… 附属教育実践総合センター 成田 雅博・山下 和之 …… 9

IX 平成15年度教育臨床研究部門事業報告 …… 附属教育実践総合センター 鳥海 順子 …… 10

X 平成15年度附属教育実践総合センター運営委員会委員 施設・設備利用委員会委員 …… 12

XI センター日誌（平成15年度）…………… 13

2004年

山梨大学教育人間科学部附属教育実践総合センター

教員養成の課題と教育実践総合センター

教育人間科学部長・センター長事務取扱 井 上 範 夫

言うまでもなく教育実践総合センターは、教員養成系学部にとって最も重要な、教員養成の充実という課題を中心にして、学校現場、教育委員会、附属学校と学部とを繋ぐ要の役割を果たすべき機関である。教育実践研究指導センターとして平成元年（1989）に発足し、次第に使命を果たす態勢を整えて、平成10年（1998）、教育実践研究部門、情報教育研究部門、教育臨床研究部門の三部門からなる現在の総合センターが成立した。当初も、またその後も教育と学校現場をめぐる問題は、増加と多様化の傾向を変えておらず、センターの役割に対する期待は高く、平成16年度からスタートする国立大学法人に於ける中期目標・中期計画にあっても、センターに関して「地域教育と学部の結節点としての役割を強化する」の目標が掲げられ、地域の教育への支援や附属学校、学部との共同研究・事業の推進などが計画されている。

教員養成の質を向上させ、また教員採用率を高めるという課題については、既にセンターは、教育実習はもとより、学生の教育ボランティア活動、「教育フォーラム」、はたまた教員採用試験への種々の対策等、積極的に関わっている。しかし贅言を費やすまでもなくこの課題は、学部一丸となって取り組まねばならぬ問題である。それ故カリキュラムの改善を中心に、学部はセンターと協力して上記の諸活動を展開するとともに、昨年から学部内にキャリアアドバイザーを設置して取り組んできた。こうした取り組みは、地域の教育界、また学生自身にも好評をもって迎えられ、それなりの成果を挙げつつあると自負している。

だが二月初め、教員採用率を著しく高めることに成功した或る国立大学教員養成系学部を訪問して、私たちの学部の取り組みの不十分さを痛感せざるを得なかった。この学部の場合、先ず入学したばかりの学校教育課程の学生に全員一緒の合宿研修を課し、教員を目指す心構えと教科学修への準備を形成させる（新課程の学生に対しても同様の合宿が行われる）。続けて教員志望の意欲を追跡調査し、教育実習へと繋げていく対策を講じる。キャリアアドバイザー的な個々の学生に対する直接的指導、また教採試験のための特別の講座は、（私たちの学部よりもっと）緻密、濃密に実施する。「学校インターンシップ」制度を単位化して実践力を高めさせる一方、採用、需要の多い教科に迅速に対応すべく、学生にそうした教科の副免許状を取らせるとともに、推薦入試の枠を利用した学生確保を心がける・・・ここに列挙したのは、この学部の対策の一部であるが、同様の対策を行う中でも彼我の徹底性や力の入れ方の差異というものを思い知らされたというところであった。

従って私たちの学部が更に取り組み、手を打つべき要所はまだまだ色々と言う事ができよう。そうした姿勢を学部全体で形成してゆくに当たっても、やはり教育実践総合センターがその中心的役割を担っていく必要があると思われる。

附属教育実践総合センターへの期待

前附属教育実践総合センター長 原 田 博

教育実践総合センターの役割がますます大きく期待されてきている。全国の教育系の学部には名称は若干異なる場合もあるが、必ず附属のセンターがあり、その数は数十に及んでいる。大学によっては、特に焦眉となりつつある現場の教育界への貢献（いわゆる地域貢献）に対応するために、学部附属から大学附属かそれに準じた部門へと、格上げする動きも出てきたようである。

本センターは、教育実践、情報教育そして教育臨床の三本柱からなっているが、それら三分野すべての事業計画が、文部科学省が推進する地域貢献特別支援事業に選定され、本年度と来年度の活動に予算が付けられることとなった。誠に喜ばしい限りであり、ご尽力くださった関係各位に厚く御礼申し上げたい。地域貢献に絞って今年度上半期を振り返って見よう。先ず、8月には昨年に引き続き「採用2年目研修」を実施し、このことは簡単ではあったが全国紙の1面で紹介された。来年度以降は、2年目という言葉を象徴的に用いて、県教育委員会による公式研修のない2年目以降から4年目に該当する現場の諸先生に広く呼びかけることも視野に入れている。同じ8月には期間採用者向けの研修を行った。現在は第一線を退いている学校長経験者十数名にご協力いただいて、県下の教育現場で働いておられる400名程度の期間採用者に呼びかけたところ、そのうち100名近い方々が、台風の接近によるあいにくの風雨にもかかわらず、終日熱心に受講された。このことは県内版ではあったが、新聞でも大きく報道された。この種の研修は全国的に見ても初めてのケースであり、来年度以降はさらにプログラムを練って実施する必要があるだろう。また、この2つの研修と並行する形で、県総合教育センターと地域貢献そのものの在り方を研究する事業も推進されている。この活動は、研修等と比較すれば地味なものではあるが、ややもすれば掛け声だけが先行し浮かれがちな地域貢献の可能性を、基礎から研究しようとする試みであり、先進的研究として大いに期待しているところである。さらにその間、県の情報教育部会と連携し、ますます重要性が高まっている高校における情報担当教員の研修を企画し、本年1月に成功裏のうちに実施させた。なお、地域貢献事業とは離れるが、7月末には県総合教育センターの依頼に応じて10年目研修を行ったが、これは学部教官の支援を得てはじめて実施できたことを感謝の意を込めて特筆しておきたい。

こうして概観すると、おおむね満足のいく事業展開であったと思われるが、課題や問題も抱えている。先ず、今後の2年目研修および期間採用者研修は、センター単独ではなく、できれば県教育委員会との何らかの連携によって行うのが望ましいであろう。次に予算の問題である。今年度と来年度の主たる事業には国から予算が付いているが、それでも十分でない場合が多い。この場合どこに予算獲得を訴えればよいのか、少しとまどう場面もあった。これはセンターの問題というよりは、大学の機構の問題である。幸い、今回は大学上層部の理解を得てことなきを得たが、大学法人化を迎え各部門の事業がスムーズに展開するためにも組織上の経路の明確さが求められよう。最後に、基本的な問題としてセンターの在り方、つまり例えば、地域貢献事業をとっても学部附属では収まりきれない面が今後出てくる可能性もあり、それも念頭に入れておく必要がある。ただそれはそれとして、今後とも学部としっかり手を携えて共存共栄を計るのが当然のことである。

最後に、在任中にお世話になった方々、特に学部事務の庶務係と会計係の方々に厚く御礼申し上げると共に、センター教職員の今後のご活躍を祈念する次第である。

平成15年度の教育フォーラムについて

実践教育運営委員会委員長 金子修一

平成15年度は、例年通り2度の教育フォーラムを行った。

本年度第1回（通算第9回）の教育フォーラムは、平成15年7月26日（土）午後2時から4時半まで、山梨大学教育人間科学部附属教育実践総合センター多目的室で、本学部中村享史教授の司会のもと「総合的な学習の時間 ―その成果と課題―」をテーマとして行われた。

パネリストは以下の通りである。

山梨大学教育人間科学部附属小学校教諭

身延町立下山中学校教諭

山梨県立北杜高等学校教諭

山梨大学教育人間科学部附属教育実践総合センター助教授

大村和也氏・新海直仁氏

今村弘樹氏・井上敬典氏

成田 健氏

林 尚示氏

大村・新海両氏は詳細な資料を用いて、附属小学校で平成7年度から13年度にかけて行われた「総合的な学習の時間」（以下「総合学習」と略す）の各学年の取り組みについて、豊富な事例を挙げて報告した。今村・井上両氏は、下山中学校の2年生の総合学習で行ったジャガイモについて多角的に調べ、最後にはジャガイモを材料とした下中まんじゅう作りに結実する、興味深い事例を報告した。成田氏は、北杜高校で平成14年に行われた三学年全体の「講座・北の杜に生きる」の意欲的な実践の報告を行った。また林氏は、過去に行われた総合学習と同様のカリキュラムなどと比較しながら、小学校・中学校・高校を通した総合学習の現代の特色について考察した結果を報告した。それぞれ力のこもった報告で、聴衆にも学校関係者の出席が目立った。各報告が具体的で盛り沢山だった分、全体討論の時間が圧縮されたのは残念であったが、小学校・中学校・高校という、成長の段階を異にする児童・生徒を対象とした総合学習の実践報告が一斉に行われた意義は大きく、参加者にとっても収穫の多い催しになったのではなかろうか。

昨年度から、2回目の教育フォーラムは教育実践総合センター客員教授を中心として、「21世紀の新しい教育を求めて ―〇〇が変わる―」という連続テーマで行うこととなった。本年度第2回（通算第10回）の教育フォーラムは、本年度の客員教授五味武彦氏の肝煎で、「21世紀の新しい教育を求めて ―地域が変わる―」をテーマに平成15年12月20日（土）午後2時から4時半まで、当日のキャンパス工事の関係で、工学部T1-4教室に会場を移して行われた。パネリストは以下の通りである。

甲府市長

山梨県公立学校PTA協議会会長

山梨大学大学院教育学研究科大学院生

山梨大学教育人間科学部附属教育実践総合センター客員教授

宮島雅展氏

山田一功氏

河西美由紀氏

五味武彦氏

また、山梨大学副学長（教学担当）黒澤幸昭氏に司会を担当して頂いた。今回は、河西氏が学生代表として、今年度から始まった放課後学生チューター事業に参加した経験を丁寧に報告した以外は、パネリスト各氏の豊富な体験を基礎に、司会者を含めた自由な討論の形で学校と地域に関わるさまざまな問題が論じられた。

甲府市内では人口の空洞化、小学校等の統廃合が現実の問題となりつつあり、山梨大学でも独立行政法人化を目の前にして、新たな地域との関わりが模索されている。地域においても急激な社会変化の中で、子どもと大人、ことに老人との間に大きな疎隔が生じてきている。そうした情勢をふまえて、学校と地域との関係の見直し、廃校校舎の積極的活用による地域の活性化、人生の先達としてのお年寄りの経験を地域で生かす方法、子どもと家庭以外の地域との関わり、社会の急速な変化を報道する時のマスコミの役割等、実にさまざまな問題が話し合われ、身近な教育問題を地域と結びつけて考えていく上で、大変興味深いフォーラムとなった。多忙な宮島市長や山田氏の出席を実現するための労を惜しまなかった五味客員教授に対し、この場を借りてお礼を申し上げる次第である。

従来の教育フォーラムでは、どちらかというと教育現場の抱えるさまざまな問題、言い換えれば教育臨床に関する諸問題を取り上げることが多かった。それはそれで十分に意義深い試みであるが、今年度第1回のフォーラムの場合、ふだん一堂に会する機会の少ない小学校・中学校・高等学校の先生方に共通の報告の場を提供した点で、教育フォーラムに新しい性格をつけ加えることができたのではなかろうか。

教育フォーラムによせて

附属教育実践総合センター客員教授 五味 武彦

本教育実践総合センター恒例の教育フォーラムは、今年で10回目を数えた。ここ数年は、教育改革に関わるテーマが中心となっている。今回は「21世紀の新しい教育を求めて」（このテーマは第8回からのシリーズである）と題して、『地域が変わる』を取りあげた。真冬の寒い12月20日（土）2時からおよそ3時間の限られた時間ではあったが、実りの多いフォーラムとなった。テーマの設定やパネリストの構成について多少の関わりをもった者として、またパネリストの一員とし参加した立場からフォーラムの経緯を述べたい。

まず4人のパネリストの構成では、『地域が変わる』テーマについて、まず地域の代表者として宮島雅展甲府市長に依頼した。宮島氏は就任して10ヶ月ほどになるが、この間3日公務を休んだだけという超多忙な市長である。最近では、市街区域の過疎化に伴う小学校の統廃合問題等で、市民との対話を精力的に行っている。その対話集会で話題となっている検討課題を中心に話していただきたいと考えた。次に学校のPTAの立場から、山田一功山梨県PTA協議会長にお願いした。親の立場で学校や社会にどのような取り組みが必要か、提案して欲しかったからである。山田会長は社会教育振興会の会長もかねており、文科省の進めている「子供の居場所づくり」の研究に積極的な発言をされるなど、幅広く地域活動をおこなっている。さらに大学院生の河西美由紀さんには、今年本大学が始めた地域貢献事業の小中学校チューター制度の報告者として参加を願った。放課後、学生が児童・生徒へどのように対応したか、その効果はどうであったか伝えて欲しかったからである。最後に私は本センターの主催者の一人として、また昨年度まで高等学校に勤務していた関係から、地域の学校の代表として参加した。私は学校の抱える問題と地域社会での学校の役割について話すことにした。司会は本学の黒澤幸昭副学長に依頼した。本学は昨年、前山梨大学と山梨医科大学との統合を果たし、「地域に根ざした大学」を目指して多くの斬新な地域貢献事業を立ち上げているところである。医学部、工学部、教育人間科学部の3学部の共同事業のことが、連日新聞紙上に掲載されていることからわかる。黒澤幸昭副学長には、これまた多忙な日程を割いて引き受けていただいた。

そこで今回のフォーラムの前提となるいくつかの視点を整理してみた。

- 1 市街地の人口の空洞化による小学校の統廃合の問題について、解決策があるのか。
○地域に根ざした学校をどのようにつくりかえていくのか。○マンモス化していく周辺校のあり方はどうなるのか。○廃校校舎の活用法はどのようにすべきか。
- 2 学区を広げつつある高校において、地域の学校とはどのような学校を指すのか。
○学校を取り巻く地域のあり方はどうあるべきか。○生徒の住んでいる地域ではどのような関わりを持つのか。○総合選抜高校は地域の学校としてどのように関わるのか。
- 3 地域から高校や大学がなくなったら、どのようなことになるか。
○大学の存在は経済効果や地域文化の活性化につながるのではないか。○高校は必ずしも地域の生徒ばかりが通っているのではない。地元の学校をどのように守り育てていくべきか。
- 4 PTA活動はどのように地域と結びついているのか。
○不登校の児童・生徒等への対応はPTA活動としてどう取り組むのか。○地域住民とPTAの協力体制をどのように組み立てるか。○社会教育の中で、地域やPTA活動はどのような関係にあるべきか。
- 5 生涯学習社会は地域とどのような関係をつくりだすか。
○地域にある学校は地域文化の核として地域社会の学習の場となるべきか。○廃校となった学校は、地域の学習施設としての有効利用ができないか。○自治会や育成会を地域教育の学習機関として位置づけないか。
- 6 ジャーナリズムは地域にどのように貢献しているか。
○地域と学校を結ぶパイプ役は機能しているか。○これまでの報道には警鐘やイベントの情報が目立つ。オピニオンリーダーとして見通しを持って地域社会へ情報を発信しているか。

以上の5つの点を参考にして、それぞれの立場で検討していただいた。もちろんこれらの項目に限ることではないので、自由に持論を展開して欲しかった。結果は熱心な討論の中で時間の立つのを忘れるほどだった。これらの問題解決のためにも、他人に任せる風潮を改め、地域の教育力をつけることが重要となっている。会場からも活発な意見が出され、いくつかの実行可能な具体的な提案もなされた。地域が変わるとは「地域が教育力を発揮することである」との指摘が印象的であった。参加された方々の意見の多くが、学校や地域がかかえている問題を何とかしたいと真剣に問い合わせる内容となった。

平成15年度 第1回期間採用者研修

附属教育実践総合センター 鳥海 順子

今年度、学校現場からのニーズを受けて「期間採用者研修」を新規事業として開始した。この研修の趣旨は、研修の機会が充分でない期間採用者のために、教育公務員のあり方や実践的指導力の向上をはかるための研修の場を提供すること、併せて、教員採用試験への助言、指導を行うことにある。研修企画にあたっては、前年度に事前調査を行い、参考にした。五味武彦客員教授及び講師の先生方には、研修内容、当日の指導等において多大なるご協力をいただいた。心より感謝申し上げたい。以下に当日のプログラムと研修後調査の結果について報告する。

1. 研修当日のプログラム 〈日時：平成15年8月9日(土) 9:30～15:30 (一部 17:30)〉

9:30 開会の挨拶

オリエンテーション

10:00 研 修 1 (教科等指導)

講 師：附属校教諭・客員教授・センター研究協力者

分科会：小学校教育・中学校教育・高校教育（体育系・文系・理系）・特殊教育

13:00 研 修 2 (学級経営)

講 師：客員教授・センター研究協力者他

分科会：義務教育・高校教育・特殊教育

14:30 研 修 3 (職務研修・教育公務員の服務)

講 師：本学非常勤講師他

分科会：義務教育・高校教育・特殊教育

15:30 研修の総括

閉 会

以下の研修は希望者のみの参加

15:40 特別研修 (教員採用試験対策：「二次試験の対策について」)

講 師：本学非常勤講師

分科会：作文対策・面接対策

17:30 終 了 (各会場にて解散)

2. 研修後調査結果

1) 申し込み (143名) 当日参加 (84名)

内 訳

内 訳	小 学 校	中 学 校	高 校	特殊教育	学 生	合 計
所 属 別	33	44	39	24	3	143
研 修 別	29	49	37	28		143
体育系			9			
文 系			20			
理 系			8			
当日所属	21 (63.6%)	10 (22.7%)	38 (97.4%)	13 (54.2%)	2 (66.7%)	84 (58.7%)
当日研修	18	14	36	16		84
体育系			9			
文 系			19			
理 系			8			
試験対策	14 (48.2%)	13 (26.5%)	27 (73.0%)	3 (10.7%)	3 (100%)	60 (42.0%)
当日参加	11	8	26	3	2	50

2) 回 収：出席者84名のうち27名（回収率32.1%）

3) 結 果：（ ）内は人数

（所 属） 小学校（8） 中学校（3） 高校（16）
（研修校種） 小学校（8） 中学校（3） 高校（16）：全員所属校と同一
（採用年数） 1～2年（16） 3～5年（9） 6～9年（2）
（研修情報の入手先） 学校宛送付書類（25） その他（2）

*その他：教頭からの紹介

（研修の内容）

	参考になった	どちらとも言えない	あまり参考にならなかった
教科等指導	22	3	1
学級経営	23	4	
公務員服務	22	5	
採用試験対策	24	3	

（研修時期） 1月（7） 4月（1） 5月（1） 6月（1） 7月（3） 8月（8） 9月（1）
10月（1） 11月（3） 12月（1）

（曜 日） 授業のない時期の平日（15） 土曜日（11） 日曜日（1）

（研修内容） 2つまで選択

教科等（12） 学級経営（9） 生徒指導（10） 教育相談（4） 採用試験（16）

（意見・感想）

- ・講師は研修の機会が皆無に等しく、中身が伴わないまま経験年数ばかり増えて、正規採用の先生方との溝が深まる一方でした。このような機会を設けていただき、大変感謝しております。今までよく分からなかったことも少しなりとも理解できたように思います。準備される先生方にはお手数をおかけしますが、今後もこのような機会を是非、設けていただければ幸いです。
- ・とても為になりました。またやって欲しいと思います。お願いします。
- ・期間採用でも担任を任されることもあるので、このような研修の機会は非常にありがたいです。本校でも使えると思ったものは2学期に活かしていきたいと思います。ありがとうございました。
- ・この度は初めての試みということで、このような機会を作って頂き本当にありがとうございました。私は学担を持ったのが初めてで、一度このような機会が3月くらいにあったら1学期もう少しだけ自信を持って臨めたような気がします。またこのような機会を楽しみにしています。
- ・学級経営についてはとても参考になった。自分が今、実際に担任を持っていてまた2学期からこうやっていけばいいんだ！と考えさせられた点が多く、とても勉強になった。ありがとうございました。
- ・大変有意義な研修だったと思います。2次試験対策中心に行ってほしいです。4月に学級経営などについて研修を行い、8月は2次試験対策中心に行えばいいと思います。
- ・今回の内容は非常に役に立ちました。学級経営に関しては、担任をもったことが無いのでどうなのかとは思っていましたが、実際に担任になったときの役に立つような内容で、とてもよかったと思います。また、採用試験対策も勉強になりました。来年受験される人の為にも、今後も続けていただきたく思います。

（次年度に向けての企画会議）

平成16年2月19日に、今年度参加者4名（小・中・高等・養護学校）の方にお集まりいただき、次年度の企画について以下のようなご意見をいただいた。

- ・開催日等：1学期1回（できれば一次試験対策も）及び8月初めに1回（平日）
- ・内 容：具体的指導方法（漢字、九九、逆上がりなど、いじめ、LD等、保護者対応等）
- ・試験対策：集団討論、実技、論文の傾向と対策、合格者から体験談

実践教育運営委員会「共同研究会」平成15年度報告

附属教育実践総合センター 鳥海 順子

「共同研究会」は、実践教育運営委員会より平成12年2月に「生き方」に関するカリキュラム開発プロジェクトとして、附属4校園から2名、学部から2名の10名のメンバーで発足した。この研究課題については、平成14年10月に『「生き方」に関する4校園の間の連携カリキュラム開発プロジェクト研究成果報告書 一幼・小・中・養護学校間の交流教育を通して一』にまとめられ、県内学校などに配布された。

平成15年度も、実践教育運営委員会のワーキンググループとして「共同研究会」を継続し、附属4校園から2名、学部から3名の計11名が参加し、ほぼ月1回、計8回行った。なお、学部からの3名のうち、2名は教育実践研究部門と教育臨床研究部門担当者である。

昨年度は研究会の場所を小学校、研究会の記録を大学側が担当したが、今年度は場所を中学校、記録は附属校が交代で担当した。

昨年度からは新たに「評価」を研究課題として取り上げ、各校の評価について検討した。評価は指導と表裏一体の関係であることから、今年度は「附属校12年間の教育の中で、子どもたちにどのような力を育てていけばよいのか」を中心に研究を進めた。研究方法としては、一貫教育という特性を生かした縦断的なケーススタディとし、現在中学生で、幼稚園から附属校に在籍している女子12名、男子6名計18名を抽出した。まず、どのような力が育っているのかをみる共通の視点について話し合い、「じっくり考えられるか」、「受容性はあるか」、「多様な見方や考え方ができるか」の3点に絞った。この視点に基づいて幼・小・中学校段階の資料を分析し、3段階評価を行った。評価にあたっては、根拠となるエピソード等があれば付記した。なお、個人情報である資料の取り扱いには注意し、個人名を特定できないように配慮した。評価結果を持ち寄り、評価の根拠について具体的に確認した。例えば「じっくり考えられるか」は「スケッチの丁寧さや集中度等」、「受容性」は「友人との接し方や優しさ等」、「多様な見方や考え方」は「アイデアや気持ちの切り替え、テストの結果等」が出された。次に、3段階評価の結果の中から、極端に評価が上昇した事例と、下降した事例について細かく検討した。この検討の中から、主観的な印象での判断になりがちであるので、行動の記述欄との対応をすべきではないか、「多様な見方」を評価する場面が少なく、むずかしかった、総合的な学習の中ではこの3つの視点は大事ではないか、教師の姿勢によっても子どもたちの育ちが違ってくるのではないか、保護者のニーズも把握しておくとの育ちの変化との関連性が理解できるのではないか、小学校で育ったものが中学校で明確化するのではないかなど様々な貴重な意見が出された。その後の研究会では、大学教員の専門分野から、それぞれ評価に関連する研究についての報告を行った。現在は、さらに「目標を設定し、解決する力を育てる」についての各校の実践について検討を行っている。

なお、別件ではあるが、今年度は本センター主催の期間採用者研修を初めて実施し、その際の教科指導研修について、共同研究会附属校メンバーから多大なる協力が得られたことを感謝したい。

平成15年度教育実践研究部門事業報告

附属教育実践総合センター 林 尚 示

平成15年度教育実践研究部門事業報告

事業の概要	事業の詳細	教育実践研究の具体的計画	他部門等との連携
学部の教員養成教育並びに大学院における教員養成及び研修	教育実習の今日的在り方に関する研究	教育実習委員会、教育実習検討専門委員会、教育実習成績評価委員会に委員として参加し、教育実習の在り方について検討した。	センター長、情報教育研究部門、教育臨床研究部門と連携
	現職教育に関する研究	現職の研究生（1名）、現職の大学院学生（1名）を受け入れて現職教員の教員としての資質向上のための方法について検討した。大学院授業「教育方法学特論」（受講者11名）及び「教育方法学特論演習」（受講者7名）を担当し、大学院に内地留学する現職教員と教育実践について検討した。	単独開催
	附属学校の教育実践に関する研究開発支援	学部と附属学校園とで組織するカリキュラム開発のための共同研究会（参加者11名）に参加して附属学校園の教育実践を検討した。	教育臨床研究部門との共同研究
	教育実践研究への協力	教育人間学部・医学部・工学部の1年生を対象に「少人数ゼミ」（受講者8名）を開催し、総合的な分野から教育実践研究を実施した。学部授業「授業研究実践論」（受講者前期後期計約120名）を担当し、学部の教員養成教育を実施した。	単独開催
	実践教育と情報教育の連携に関する研究	学部授業「情報科学入門及び実習」（受講者40名）を担当し、学部の教育実践と情報教育を連携させた。	学部の他の教官とチーム・ティーチング
地域などとの学校外教育・連携教育	公私立学校などとの連携	山梨県教育委員会主催事業、小中校内研究会へ協力した。公立学校教員からの教育相談に応じた。山梨県総合教育センター職員による「授業研究実践論」（3月16・17・18日）を実施するための調整をしている。	山梨県教育委員会、山梨県総合教育センターとの連携
	公開講座の企画及び充実	山梨大学公開講座「教育方法学特論」（参加者2名）を企画し講師として公開講座を実施した。文部科学省委嘱事業 el-Net (education and learning Network) 公開講座に講師として参加した。	el-Netで教育臨床研究部門との共同講義

委員会等

文部科学省への貢献	全学への貢献	学部への貢献	附属学校への貢献
人権教育の指導方法等に関する調査研究会議委員、el-Net公開講座講師	総合情報処理センター員、広報誌専門委員、自己点検・評価委員	教育実習検討専門委員、教育実習委員、教育実習成績評価委員、自己点検・評価委員	共同研究会研究員、附属中学校校内研究会講師

平成15年度情報教育研究部門事業報告

附属教育実践総合センター情報教育研究部門 成田雅博・山下和之

本研究部門では、今年度以下の事業を行った。

●情報教育に係る教師教育

○現職教員研修への協力

- ・山梨大学授業公開講座「インターネットと教育－情報通信機器を活用した教育実践とIT環境の整備」
- ・山梨県総合教育センター講習 高特・数学科研修会講師。8月6日。参加者高等学校教員15人
- ・第46回山梨県数学教育研究北巨摩大会指導助言。11月19日。参加者高等学校教員30人
- ・学校図書館司書教諭講習「学校図書館メディアの構成」。8月12日・13日。参加者教員等90人
- ・山梨大学地域貢献特別支援事業（高等学校新教科「情報」担当教員支援）の一環として、山梨県高校教育研究会情報科部会と共催し山梨県高等学校教科情報研修を開催。1月22日。参加者30名
- ・河口湖畔教育協議会「情報化と教育」研究部会半日研修講師。11月8日。参加者小学校教員10人

○教員養成

- ・学部教職科目「情報教育実践論」。学部共通科目「情報機器の操作」。「視聴覚教育メディア論」。総合科目「情報化社会とインターネット」。大学院科目「情報教育特論」。大学院科目「情報教育特論演習」

●山梨県教育委員会・山梨県総合教育センター・山梨県内学校・山梨県等との情報関連の連携

- ・山梨県総合教育センター情報教育部への協力
- ・山梨県総合教育センター第1回情報教育研究部部内研修会指導・助言。10月1日。参加者17人
- ・山梨県総合教育センター研究大会指導助言。2月19日。参加者小中高等学校教員等40人
- ・山梨県都市コミュニティ研究成果展開事業遠隔教育分科会への協力
- ・e!プロジェクト教育分科会への協力

●附属学校との連携

- ・大学の情報教育関連授業の一部を附属学校教官が担当（情報教育実践論・情報化社会とインターネット）

●情報教育、教育へのICT（information and communication technology）活用に関する研究・研究会

- ・第4回教育実践研究会。話題提供者：長屋英人氏（岐阜県輪之内町立仁木小学校 教諭）。8月22日。
- ・第2回学習システム研究会。講師：成田和子氏（同志社女子大学助教授）・吉原太郎氏（昭和音楽大学 非常勤講師）。テーマ：コンピュータを活用した音の加工・作曲・編曲・演奏。8月29日。参加者14名
- ・ミュージッククリエーション夏期アトリエ2003事前講習会。音と音楽・創作工房116と共催。

●施設・設備の管理・学部共通利用サービス

- ・マルチメディア教材作成室の管理
- ・J号館サブネット・Webサーバの管理

●広域ネットワークにおける教育リソースの提供・充実

- ・メーリングリスト及びWebによる教育情報の流通（算数・数学教育メーリングリストmathedu等）
- ・Webによるカリキュラム・教材等の情報提供

●その他

- ・日本情報処理学会情報処理教育委員会一般情報処理教育小委員会における研究
- ・教育情報化推進コーディネータ検定試験に対する協力
- ・国立大学教育実践研究関連センター協議会メーリングリストの運営

平成15年度教育臨床研究部門事業報告

附属教育実践総合センター教育臨床研究部門 鳥海 順子

継続事業「教師のための教育相談」事業、「教員採用2年目研修」及び新規事業「期間採用者研修」が文部科学省の地域貢献特別支援事業に採択され、「教育相談・教員研修」事業として一層の充実を図った。

1. 教員養成教育・現職教員再教育

a) センター主催の研修会・研究会

- ・第1回期間採用者研修（教育臨床研究部門・教育実践研究部門）。8月9日。参加者84名（申し込み115名）、内容（職務研修・教科、学級経営研修・教員採用試験対策）：地域貢献特別支援事業
- ・第2回教員採用2年目研修（教育臨床研究部門・教育実践研究部門）。8月16日。参加者14名（申し込み16名） *昨年度の参加者8名、内容（講演・グループ討議）：地域貢献特別支援事業
- ・教育臨床研究会（特別支援教育に関する事業）。11月12日(15名)、1月21日(15名)、3月17日。

b) 附属学校との共同研究プロジェクト・研究会・研修会

- ・附属4校園と学部との共同研究会を継続して行っている（教育実践研究部門と合同）。概要：現在「評価」について学部と附属学校が協力して研究を進めている。幼稚園・小学校・中学校・養護学校から2名、学部から3名の計11名が参加し、ほぼ月1回開催している。
- ・附属学校への教育相談を昨年度5月より学部とのチーム体制で実施。ほぼ月1回訪問し、主として保護者・教員へのコンサルテーションを行い、今年度は養護教諭とも連携を強化した。さらに今年度、附属小・中学校の保護者向け研修会講師を担当した。また、平成16年1月の附属幼稚園航空写真撮影スナ機事故の翌日に開かれた保護者集会で「心のケア」について説明し、保護者の相談に対応した。その他、附属養護学校の校内研修講師、附属小学校の公開研究会「道德」の助言者を担当した。

c) 「教師のための教育相談」

平成14年2月より開始し、今年度は教育人間科学部教官48名（昨年度46名）と教育実践総合センター客員教授1名、学外協力者4名（小・中・高校、特殊教育担当）が相談スタッフとなり、電話、メール、FAX等で対応。相談件数は4月から2月現在45件（昨年度11件）。不登校、学習障害、情報教育、評価、教師の悩み等に対応した。Webページの改善や地域貢献支援事業費により相談案内パンフレットを作成し、県内の全ての学校に配布した。

d) 学部・大学院教育への参与

- ・担当科目：学校教育相談論（学部）、学習困難児の教育と心理学（学部）
女性と人権（学部）、子どもと家族（学部）、教育相談特論（研究科）、
教育相談特論演習（研究科）、人間形成の現代的課題（研究科）
- ・学生総合相談員（保健管理センター）

2. 対外的な教育・研究活動状況

a) 文部科学省・都道府県・市町村・公立学校関連

- ・山梨県特別支援教育推進モデル事業運営委員会（副代表）・専門家チーム委員会（代表）・巡回相談員
- ・文部科学省「幼稚園における障害のある幼児の受け入れや指導に関する調査研究」指定地域に係る増穂町峡南幼稚園調査研究推進地域連絡会運営委員会・専門家チーム委員会委員

- ・文部科学省「小中学校におけるLD、ADHD等の児童生徒への教育支援体制の整備のためのガイドライン策定」に係る協力者
- ・研修・講演会講師：小学校研修（特別支援教育・発達・健全育成・道德教育等）、教育委員会（不登校・特別支援教育・生徒指導等）、高大連携出前授業（心理学）、学校教育相談学会研修他（計14件）
- ・10年目経験者研修への大学側窓口・教育相談コース講師
- ・エルネット・オープンカレッジ講師（教育実践研究部門と合同）「発達学初級と教育実践学初級」

b) 公立学校へのカウンセリング、コンサルテーション活動状況

- ・山梨県要請型派遣スクールカウンセラーとして延べ12校、50件に対応（平成16年2月現在）

3. 平成15年度の総括と次年度に向けて

- ・期間採用者研修の内容については、今年度参加した4名の協力者による企画会議を開催し、その話し合いをもとにさらに充実させる（2月19日実施）。
- ・教員採用2年目研修は今年度全県へと拡大したが、参加者数が増加せず、次年度は教員採用5年未満を対象とし、日程も検討したい。
- ・附属学校のスクールカウンセラーとして活動に広がりが出てきた。問題が顕在化する前の日常的な対応をこそ重視していきたい。
- ・教師のための教育相談スタッフに現場経験者を迎え、幅広く相談に対応できるようになった。新しく見やすいパンフレットを作成できたが、さらに内容を検討し、活用しやすいものにしていきたい。引き続き今後も広報活動に努め、学内教官の協力も求めていく。
- ・教育相談、教員研修など地域貢献という視点から今後も対外的な活動の方法を模索していきたい。

2003年度（平成15年度）附属教育実践総合センター 運営委員会委員

井 上 範 夫	センター長事務取扱（平成15年11月5日から）
原 田 博	センター長（平成15年11月4日まで）
吉 川 行 雄	附属4校園代表（附属中学校長）
中 丸 宣 明	国語教育（第1ブロック）
佐 藤 正 幸	社会科教育（第2ブロック）
松 森 靖 夫	理科教育（第3ブロック）
川 村 協 平	保健体育（第4ブロック）
尾 見 康 博	学校教育（第5ブロック）
古 屋 公 彦	附属小学校
荻 野 昭 彦	附属中学校
八 巻 浩 代	附属養護学校
武 川 はる美	附属幼稚園
五 味 武 彦	センター客員教授
鳥 海 順 子	センター専任教官
成 田 雅 博	センター専任教官
山 下 和 之	センター専任教官
林 尚 示	センター専任教官
以上17名	
担当事務：志田 正仁（庶務係長）	

2003年度（平成15年度）附属教育実践総合センター 施設・設備利用委員会

宮 澤 正 明	国語教育
藤 原 嘉 文	音楽教育
高 橋 英 児	学校教育
栗 田 真 司	生涯学習
滝 口 晴 生	国際文化
森 田 秀 二	国際文化
町 田 茂	国際文化
藤 田 孝 夫	技術教育
加 藤 一	ソフトサイエンス
鳥 海 順 子	センター専任教官
成 田 雅 博	センター専任教官
山 下 和 之	センター専任教官
林 尚 示	センター専任教官
以上13名	

センター日誌（平成15年度）

- 4月 1日 平成15年度客員教授として五味武彦氏が就任（2004年3月31日まで）
- 4月 2日 山梨県教育委員会高校教育課 土肥満指導主事が訪問。「平成15年度特別支援教育推進体制モデル事業」について相談を受ける（鳥海）
- 4月 9日 山梨県立科学館の清水勝義館長，学芸員の高橋真理子氏，信清憲司氏がセンターを来訪。今後の連携，協力について協議（原田センター長・成田・山下）
- 4月 9日 学長裁量経費による「学習コンテンツ作成実習用コンピュータ・システム 一式」への追加機器をキャノンシステムアンドサポートが搬入・調整（マルチメディア教材作成室 成田，山下）
- 4月 9日 附属校のための学内カウンセラーチーム第1回会議に出席（鳥海）
- 4月 10日 平成15年度第1回実践センター教官会議
- 4月 10日 附属校のための教育相談についての打ち合わせ（附属小学校小尾教諭・附属中学校葉袋教諭・鳥海）
- 4月 16日 富士川小学校ことばの教室「親の会学習会」講師。演題「心の対話でことばを育む」。参加者20名。（富士川小学校ことばの教室にて，鳥海）
- 4月 16日 附属小学校教官会議にて今年度教育相談について説明し，該当児童担任と打ち合わせを行った（鳥海）
- 4月 17日 平成15年度第2回実践センター教官会議
- 4月 18日 附属養護学校にて今年度教育相談についての打ち合わせ及び見学。広瀬校長，広瀬副校長，手塚教務主任と面談（鳥海）
- 4月 18日 実践教育運営委員会第1回共同研究会に出席（附属中学校にて，鳥海・林）
- 4月 23日 教育実践総合センターだより No.19（通巻No.86）発行
- 4月 23日 平成15年度第3回実践センター教官会議
- 4月 23日 平成15年度山梨県特別支援教育推進体制モデル事業について，土肥指導主事，岡教諭，元木教諭と打ち合わせ（鳥海）
- 4月 23日 平成15年度山梨大学教育人間科学部客員教授歓送迎会及び附属教育実践総合センター山下教官歓迎会
- 4月 24日 平成15年度10年目経験者研修について総合教育センター伊藤宗範部長，三枝正研修主事と打ち合わせ（原田センター長・五味客員教授・鳥海）
- 4月 25日 附属小学校にて教育相談（鳥海）
- 4月 30日 第2回教育実習検討専門委員会（B会議室にて，林）

- 5月 2日 国立大学教育実践関連センター協議会メーリングリストcerdのサーバの不具合にともない，新しいメーリングリスト・サーバsazankaにてcerdの運用開始（山下）
- 5月 7日 第1回教育ボランティア委員会（林）
- 5月 7日 平成15年度山梨県特別支援教育推進体制モデル事業第1回調査研究運営会議に出席（鳥海）
- 5月 7日 第2回実践教育運営委員会（林）
- 5月 7日 学部ホームページ専門委員会に出席（山下）
- 5月 8日 平成15年度第4回実践センター教官会議
- 5月 8日 NHK山口の川西氏より教員採用2年目研修について問い合わせの電話があり，昨年度の資料をFAXにて送付（鳥海）
- 5月 9日 平成15年度山梨県特別支援教育推進体制モデル事業について土肥指導主事と打ち合わせ（鳥海）
- 5月 9日 文部科学省「幼稚園における障害のある幼児の受け入れや指導に関する調査研究」指定地域に係る「増穂町峡南幼稚園調査研究推進地域連絡会」第1回調査研究運営会議に出席（鳥海）
- 5月 9日 山梨県教育委員会 思春期の子どもと向き合う保護者のためのセミナー講演「思春期の心理発達～不登校の子どもの心を探る～」。参加者30名（鳥海）

5月 11日 教育情報化コーディネータ検定試験に係る打ち合わせに出席（聖心女子大学にて，成田）
 5月 12日 第3回教育実践研究会 テーマ：豊かな国オーストラリアの環境にまつわるはなし，話題提供者：尾見康博助教授（学校教育講座）（多目的教室にて）参加者8名
 5月 13日 県立女子短大自己点検・評価意見交換（多目的教室にて，林）
 5月 14日 第1回教育実習運営・連絡協議会（A会議室にて，林）
 5月 14日 山梨県特別支援教育推進体制モデル事業研究協力校（塩山南小学校）校内研修会講師。演題「LD，ADHD，高機能自閉症児等の理解について」。参加者32名（鳥海）
 5月 14日 文部科学省「幼稚園における障害のある幼児の受け入れや指導に関する調査研究」指定地域に係る「増穂町峡南幼稚園調査研究推進地域連絡会」第1回専門家チーム会議に出席（鳥海）
 5月 14日 学部ホームページ専門委員会に出席（山下）
 5月 15日 平成15年度第1回教育実践総合センター運営委員会
 5月 16日 東八代地区指導主事研修事前打ち合わせ（林）
 5月 20日 学部ホームページ専門委員会に出席（山下）
 5月 23日 山梨県都市コミュニティ研究成果展開事業の今年度事業計画について，下部中学校校長・井上公彦教諭及び市川南中学校葉袋恒校長・佐野悦夫教諭と打ち合わせ（成田）
 5月 23日 学部ホームページ専門委員会に出席（山下）
 5月 25日 教育情報化コーディネータ検定試験に係る打ち合わせに出席（聖心女子大学にて，成田）
 5月 25日 平成15年度山梨県特別支援教育推進体制モデル事業第1回専門家チーム会議に出席（鳥海）
 5月 28日 教育実践総合センターだより No.20（通巻No.87）発行
 5月 28日 FD 懇談会に出席（山下）
 5月 29日 平成15年度第5回実践センター教官会議
 5月 30日 日本教育工学会振興会（JAPET）定時総会において，学校教育におけるIT活用の方策に関する研究発表（ホテルフロラシオン青山にて，成田）

6月 1日 教育情報化コーディネータ検定試験に係る打ち合わせに出席（聖心女子大学にて，成田）
 6月 4日 東八代地区指導主事研修「教育評価」（林）
 6月 4日 第2回教育ボランティア委員会（林）
 6月 4日 学部ホームページ専門委員会に出席（山下）
 6月 5日 第1回人権教育の指導方法等に関する調査協力者会議（東京霞山会館にて，林）
 6月 6日 山梨県都市コミュニティ研究成果展開事業の今年度事業計画について，下部中学校校長・井上公彦教諭と打ち合わせ（成田）
 6月 6日 実践教育運営委員会第2回共同研究会に出席（鳥海・林）
 6月 7日 日本情報処理学会一般情報処理教育小委員会に出席（日本情報処理学会事務局にて，山下）
 6月 9日 櫛形北小学校における教育相談（鳥海）
 6月 11日 山梨大学高大連携出前授業「心を科学する～発達心理学への招待～」参加者：高校生2年生96名（吉田高校にて，鳥海）
 6月 11日 学部ホームページ専門委員会に出席（山下）
 6月 12日 平成15年度第6回実践センター教官会議
 6月 13日 地域貢献特別支援事業「『授業研究実践論』による県との連携」に係る打ち合わせ（山梨県総合教育センターにて，五味・林）
 6月 13日 附属小学校における教育相談（鳥海）
 6月 13日 学部ホームページ専門委員会・業者面談会に出席（山下）
 6月 14日 第5回全日本 Web 教材開発コンテスト ThinkQuest@JAPAN2002授賞式及びファイナリストによる発表会に審査員として出席（東京 都市センターホテルにて，成田）
 6月 16日 附属養護学校学校給食学内試食会に参加（鳥海）
 6月16・23・30日 山梨大学授業公開講座「教育方法学特論」（情報メディア館マルチメディア多目的ホールにて，林）

6月 18日 第3回教育ボランティア委員会（林）
 6月 20日 授業研究実践論集中講義打ち合わせ（福祉プラザ4F第1会議室にて、五味・林）
 6月21～30日 科学研究費補助金による調査研究のため国外出張（アメリカ合衆国、成田）
 6月 23日 甘利小学校における教育相談（鳥海）
 6月 23日 教育実践総合センターだより No.21（通巻No.88）発行
 6月 24日 地域貢献特別支援事業費に係る学内打ち合わせ（原田センター長・鳥海・山下・林）
 6月 24日 地域貢献特別支援事業費に係る打ち合わせ（福祉プラザ4F第1会議室にて、五味・林）
 6月 25日 山梨県教育委員会高校教育課土肥指導主事との「特別支援教育推進体制モデル事業」に関する打ち合わせ（鳥海）
 6月 25日 第2回教育実習委員会（B会議室にて、林）
 6月 25日 学生ボランティア委員会作業（印刷室にて、林）
 6月 25日 学部ホームページ専門委員会に出席（山下）
 6月 26日 平成15年度第7回実践センター教官会議
 6月 27日 白根東小学校における教育相談（鳥海）
 6月 30日 新藤はる子事務補佐員辞職。新藤はる子事務補佐員送別会
 6月 30日 附属小学校における教育相談（鳥海）

 7月 1日 雨宮優子事務補佐員着任。
 7月 2日 教育実習事後指導（M110にて、林）
 7月 2日 学部ホームページ専門委員会に出席（山下）
 7月 4日 富士吉田地区初任者研修講師「教育評価」（林）
 7月 4日 玉穂南小学校における教育相談（鳥海）
 7月 7日 附属小学校における教育相談（鳥海）
 7月 9日 附属校のための学内カウンセラーチーム第3回会議に出席（鳥海）
 7月 9日 増穂町教育委員会「幼稚園における障害のある幼児の受け入れや指導に関する調査研究」に係る増穂町峡南幼稚園調査研究推進地域連絡会第2回専門家チーム会議に出席（鳥海）
 7月 10日 平成15年度第8回実践センター教官会議
 7月 11日 実践教育運営委員会第3回共同研究会（附属中校長室にて、鳥海・林）
 7月 11日 第2回実践教育運営委員会（英語教育セミナー室にて、林）
 7月 14日 附属幼稚園における教育相談（鳥海）
 7月 14日 櫛形小学校における教育相談（鳥海）
 7月 15日 平成15年度第1回山梨県立科学館学習利用検討会に出席。助言（成田・堀評議員）
 7月 15日 山梨県特別支援教育推進体制モデル事業第2回専門家チーム会議に出席（鳥海）
 7月 16日 教育実践総合センターだより No.22（通巻No.89）発行
 7月 16日 山梨大学公開講座に関して、山梨県立甲府工業高等学校の手塚幸樹教諭を訪ね、高等学校教科「情報」の実施状況の調査及びICT施設設備の視察を行った（成田・山下）
 7月 17日 第2回「授業研究実践論C」打ち合わせ（鳥海・林）
 7月 17日 期間採用者研修打ち合わせ（五味・鳥海・林）
 7月 17日 第3回共同研究会（附属中校長室にて、鳥海・林）
 7月 17日 平成15年度第1回教育実践総合センター研究紀要編集委員会
 7月 17日 平成15年度第9回実践センター教官会議
 7月 18日 第4回教育ボランティア委員会（林）
 7月 18日 学部ホームページ専門委員会に出席（山下）
 7月 22日 山梨大学附属中学校校内研究会講演「構成主義に基礎をおく学校教育の評価研究」（林）
 7月 22日 山梨大学公開講座に関して、山梨県立甲府第一高等学校の依田源教諭を訪ね、高等学校教科「情報」の実施状況の調査及びICT施設設備の視察を行った（成田・山下）
 7月 22日 教育フォーラム打ち合わせ（林）

- 7月 23日 山梨大学地域貢献特別支援事業（高等学校新教科「情報」担当教員支援）について、山梨県教育委員会高校教育課の赤岡指導主事、望月指導主事と打ち合わせ（成田・山下）
- 7月 24日 地域貢献特別支援事業に係る打ち合わせ（山梨県総合教育センターにて、五味・林）
- 7月 24日 学生チューター事前指導（多目的教室にて、五味・林）
- 7月 25日 山梨県教育委員会高校教育課、企画課、山梨県企画部訪問（五味・林）
- 7月 26日 第9回教育フォーラム「総合的な学習の時間－その成果と課題－」（多目的教室にて）
- 7月 28日 学部ホームページ専門委員会に出席（山下）
- 7月 30日 山梨県総合教育センター教員研修会講師「LD等の基礎理解」概要：LD等の基礎的知識および学校における対応。参加者170名（鳥海）
- 7月 31日 教員採用10年目研修会講師「教育相談研修」。参加者79名（山梨大学にて、鳥海）
- 7月 31日 平成15年度第10回実践センター教官会議
-
- 8月 1日 第3回教育実習委員会（B会議室にて、林）
- 8月 2日 日本情報処理学会一般情報処理教育小委員会に出席（東大駒場にて、山下）
- 8月 4日 第3回「授業研究実践論C」打ち合わせ（福祉プラザにて、鳥海・林）
- 8月 4日 2年目研修打ち合わせに参加（原田・五味・鳥海・林）
- 8月 6日 山梨県総合教育センター講習（高特・数学科研修会）講師。現実と数学との関わりに関する教材とテクノロジーを利用した教育方法について講義。参加者高等学校教員15名。（山梨県総合教育センターにて、成田）
- 8月 6～8日 集中講義「授業研究実践論C」担当（林）
- 8月 7日 教員期間採用者研修準備・打ち合わせ（センター長室にて、原田・五味・鳥海・林）
- 8月 9日 教員期間採用者研修。参加者84名（多目的教室にて、原田・五味・鳥海・林）
- 8月 11日 白根東小学校における教育相談（鳥海）
- 8月 12日 山梨大学教育人間科学部附属養護学校 校内研修会講師「思考力の発達について」（鳥海）
- 8月12～13日 平成15年度学校図書館司書教諭講習「学校図書館メディアの構成」講師（成田）。参加者小・中・高校教員等60名
- 8月 14日 2年目研修打ち合わせに参加（五味・鳥海・林）
- 8月 16日 教員採用2年目研修。参加者14名。（多目的教室にて、原田・五味・鳥海・林）
- 8月 20日 文部科学省「小中学校におけるLD、ADHD等の児童生徒への教育支援体制の整備のためのガイドライン策定会議」に出席（鳥海）
- 8月 22日 公開講座「インターネットと教育－情報通信機器を活用した教育実践とIT環境の整備」。参加者3名。（マルチメディア教材作成室にて、成田・山下）
- 8月 22日 第4回教育実践研究会 話題提供者：長屋英人氏（岐阜県輪之内町立仁木小学校 教諭）テーマ：岐阜県における情報教育・教育の情報化の推進事例について。参加者10名
- 8月 26日 第3回人権教育の指導方法等に関する調査研究会議（霞山会館にて、林）
- 8月 28日 第5回教育ボランティア委員会（L419にて、林）
- 8月 29日 共同研究会大学側打ち合わせ（教育実践総合センター長室にて、鳥海・林）
- 8月 29日 実践教育運営委員会第4回共同研究会に出席（鳥海・林）
- 8月 29日 第2回学習システム研究会 講師：成田和子氏（同志社女子大学助教授）・吉原太郎氏（昭和音楽大学非常勤講師・山梨大学教育人間科学部附属教育実践総合センター研究協力者）テーマ：コンピュータを活用した音の加工・作曲・編曲・演奏システム。参加者14名
- 8月29～30日 ミュージッククリエーション夏期アトリエ2003事前講習会。音と音楽・創作工房116と共催。（マルチメディア教材作成室にて）。参加者4名
-
- 9月 3日 第6回教育ボランティア委員会（L418にて、林）
- 9月 4日 地域貢献教育学研究会（山梨県総合教育センター会議室にて、五味・林）
- 9月 5日 竜王北小学校における教育相談（鳥海）

9月	8日	教育ボランティア委員会主催事前指導（L423にて、五味・林）
9月	8日	e！プロジェクト推進委員会に出席（山梨県庁にて、山下）
9月	11日	山梨大学地域貢献特別支援事業（高等学校新教科「情報」担当教員支援）について、山梨県 高校教育研究会情報科部会長の飯島武志塩山高等学校長、事務局の鷹野賢治教諭と打ち合わ せ（成田・山下）
9月	19日	「教育臨床研究会」に関する高校教育課土肥指導主事、大木親の会会長との打ち合わせに参加 （鳥海）
9月	2023日	教育情報化コーディネータ検定試験に係る打ち合わせに出席（聖心女子大学にて、成田）
9月	22日	第4回人権教育の指導方法等に関する調査研究会議（虎ノ門パストラルにて、林）
9月	24日	エル・ネット打ち合わせ（J515にて、鳥海・林）
9月	25日	教育実践総合センターだより No.23（通巻No.90）発行
9月	25日	平成15年度第11回実践センター教官会議
9月	26日	GPAワーキング（管理棟2会議室にて、林）
9月	26日	山梨県特別支援教育推進体制モデル事業第3回専門家チーム会議に出席（鳥海）
9月	29日	エル・ネット「オープンカレッジ」山梨大学公開講座「発達学初級と教育実践学初級」講師（鳥 海・林）
9月	30日	第7回教育ボランティア委員会（L423にて、林）
9月	30日	新紺屋小学校学生チューター打ち合わせ（林）
10月	1日	山梨県総合教育センター第1回情報教育研究部部内研修会において指導・助言。参加者17名（山 梨県総合教育センターにて、成田）
10月	1日	学部ホームページ専門委員会に出席（山下）
10月	2日	平成15年度第12回実践センター教官会議
10月	2日	平成15年度第2回教育実践総合センター研究紀要編集委員会
10月	2日	山梨県特別支援教育推進体制モデル事業明野小学校における巡回指導（鳥海）
10月	3日	甘利小学校における教育相談（鳥海）
10月	3日	白根東小学校における教育相談（鳥海）
10月	4日	日本学校教育相談学会山梨県支部研修会講演「学習困難を示す子どもたちへの対応～不登校、 LD、ADHD等～」参加者30名（鳥海）
10月	6日	教育実践総合センター研究紀要に係る業者打ち合わせ（成田・山下・林）
10月	7日	第5回人権教育の指導方法等に関する調査研究会議（霞山会館にて、林）
10月	9・16・ 23・30日	文部科学省委託 エル・ネット高度化推進事業「オープンカレッジ」山梨大学公開講座講師「発 達学初級と教育実践学初級」（鳥海・林）
10月	10日	附属小学校における教育相談（鳥海）
10月	13日	第63回国立大学教育実践研究関連センター協議会に出席（岩手大学にて、原田センター長・ 鳥海・成田・山下・林）
10月	15日	実践教育運営員会（英語セミナー室にて、原田・成田・林）
10月	15日	教育実習検討専門委員会（特別会議室にて、原田・成田・林）
10月	15日	SCS 委員会に出席（山下）
10月	16日	山梨大学地域貢献特別支援事業（高等学校新教科「情報」担当教員支援）に関して、山梨県 高校教育研究会情報科部会第1回総会に出席し打ち合わせ（山梨県総合教育センターにて、 成田・山下）
10月	16日	地域貢献教育学研究会（山梨県総合教育センター会議室にて、五味・林）
10月	20～21日	文部科学省メンタルヘルス協議会に参加（鳥海）
10月	23日	山梨大学教育人間科学部附属中学校保護者学習会講師「思春期の子どもの心を探る」。参加者 60名（鳥海）
10月	23日	平成15年度第13回実践センター教官会議

10月	23日	実践教育運営委員会第5回共同研究会（附属中学校にて，鳥海・林）
10月	23日	ISO 学内監査に対応（山下）
10月	24日	附属小学校における教育相談（鳥海）
10月	28日	教育フォーラムポスター打ち合わせ（J515にて，林）
10月	29日	教育実践総合センターだより No.24（通巻No.91）発行
10月	29日	増穂町教育委員会「幼稚園における障害のある幼児の受け入れや指導に関する調査研究」に係る増穂町峡南幼稚園調査研究推進地域連絡会専門家チーム会議に出席（鳥海）
10月	31日	白根東小学校における教育相談（鳥海）
11月	5日	原田博教授がセンター長を辞任。井上範夫学部長がセンター長事務取扱を兼任（2004年3月31日まで）
11月	5日	山梨大学・山梨県連携推進協議会
11月	6日	附属小学校における教育相談（鳥海）
11月	6日	平成15年度第14回実践センター教官会議
11月	7日	河口湖畔教育協議会「情報化と教育」部会研究会。河口湖畔教育協議会・教育実践総合センター共催。受講者小学校教員10名（マルチメディア教材作成室にて，成田）
11月7・11・18日		山梨県都市コミュニティ研究成果展開事業遠隔教育分科会に係る打ち合わせ・調査を下部町
12月2・10日		立下部中学校で行う（成田）
11月	8～9日	山梨県連合教育会共同研究（鯉沢町にて，林）
11月	10日	山梨県特別支援教育推進体制モデル事業塩山南小学校における巡回指導（鳥海）
11月	12日	第1回教育臨床研究会。「特別支援教育における家庭学習（1）算数の家庭学習の指導法について」参加者15名（鳥海）
11月	12日	附属小学校における教育相談（鳥海）
11月	12日	増穂町教育委員会「幼稚園における障害のある幼児の受け入れや指導に関する調査研究」に係る増穂町峡南幼稚園調査研究推進地域連絡会第4回専門家チーム委員研修講演「わが国の障害児教育の動向」（鳥海）
11月	12日	教育臨床研究会。「特別支援教育における家庭学習（1）」講師：土肥満氏（山梨県教育委員会指導主事）・山本由美子氏（韮崎小学校教諭）（鳥海）
11月	13日	山梨大学教育人間科学部附属小学校保護者学習会「子どもたちの心の健康について」。参加者80名（鳥海）
11月	13日	東京都教職員研修センター・東京学芸大学視察（五味・林）
11月	14日	地域ふれあい道德教育推進事業（穴切小学校）心の教育懇談会講演「子育てに生かすカウンセリング・マインド」。参加者60名（鳥海）
11月	15日	新田地区子どもイキ育成会議（新田小学校）講演「子育てにおける家庭・学校・地域の役割」。参加者200名（鳥海）
11月	17日	文部科学省人権教育学校視察（小金井第二小学校，林）
11月	19日	第46回山梨県数学教育研究北巨摩大会において指導・助言（数学のカリキュラム研究における教育の情報化に関する問題について）。参加者高等学校教員40名（北杜高等学校にて，成田）
11月	19日	学部ホームページ専門委員会に出席（山下）
11月	20日	平成15年度第15回実践センター教官会議
11月	21日	共立女子大学家政学部若井邦夫教授がセンターを視察（鳥海）
11月	25日	文部科学省人権教育会議（虎ノ門パストラルにて，林）
11月	26日	教育フォーラム大学院生打合せ（J515にて，林）
11月	26日	附属小学校における教育相談（鳥海）
11月	27日	山梨大学地域貢献特別支援事業（高等学校新教科「情報」担当教員支援）について，山梨県高校教育研究会情報科部会教科情報カリキュラム研究チーム第1回打ち合わせ（センター会議室にて，成田・山下）

11月 27日 山梨県特別支援教育推進体制モデル事業第4回専門家チーム会議に出席（鳥海）
 11月 28日 山梨県市町村教育委員会研修会講演「特殊教育から特別支援教育へ」。参加者330名（鳥海）
 11月 28日 教育実践総合センターだより No.25（通巻No.92）発行
 11月 28日 附属小学校における教育相談（鳥海）

12月 1日 学部ホームページ専門委員会・業者面談会に出席（山下）
 12月 1日 教育実践総合センター研究紀要に係る業者打ち合わせ（山下）
 12月 3～4日 文部科学省人権教育大阪視察（林）
 12月 3日 文部科学省「小中学校におけるLD、ADHD等の児童生徒への教育支援体制の整備のためのガイドライン策定会議」に出席（鳥海）
 12月 6～7日 教育情報化コーディネータ検定試験実施への協力（聖心女子大学にて、成田）
 12月 10日 学部ホームページ専門委員会に出席（山下）
 12月 11日 平成15年度第16回実践センター教官会議
 12月 11日 附属小学校公開研究会打ち合わせ会議に出席（鳥海）
 12月 12日 附属小学校における教育相談（鳥海）
 12月 12日 増穂町教育委員会「幼稚園における障害のある幼児の受け入れや指導に関する調査研究」に係る増穂町峡南幼稚園調査研究推進地域連絡会専門家チーム委員会巡回指導（鳥海）
 12月13～14日 教育情報化コーディネータ検定試験実施への協力（園田学園女子大学にて、成田）
 12月 17日 教育フォーラム指導（J515にて、林）
 12月 18日 地域貢献教育研究会（山梨県総合教育センター会議室にて、林）
 12月 18日 文部科学省人権教育会議（虎ノ門パストラルにて、林）
 12月 19日 実践教育運営委員会第6回共同研究会（附属中学校校長室にて、鳥海・林）
 12月 20日 山梨大学教育人間科学部高校生のための公開授業「子どもの発達を科学する～心の発達～」。参加者25名（鳥海）
 12月 20日 第10回教育フォーラム「21世紀の新しい教育を求めて『地域が変わる』」。参加者50名（T1-4教室にて）
 12月 20日 日本情報処理学会一般情報処理教育小委員会に出席（東大駒場にて、山下）
 12月23～26日 山梨大学地域貢献特別支援事業の一環として情報収集（沖縄県教育センター他、林）
 12月 26日 教育実践総合センターだより No.26（通巻No.93）発行

1月 15日 平成15年度第17回実践センター教官会議
 1月 16日 学生チューター打合せ会（甲府市教育研修所にて、井上・林）
 1月 21日 教育実習成績評価委員会
 1月 21日 第2回教育臨床研究会。「特別支援教育における家庭学習（2）算数の家庭学習の指導法について」参加者15名（鳥海）
 1月 22日 山梨大学地域貢献特別支援事業（高等学校新教科「情報」担当教員支援）の一環として、山梨県高校教育研究会情報科部会と共催で、山梨県高等学校教科情報研修を開催。参加者30名（多目的教室にて、成田・山下）
 1月 22日 附属小学校における教育相談（鳥海）
 1月 23日 附属幼稚園保護者集会にて助言「事故後の心のケア」（鳥海）
 1月 23日 山梨県特別支援教育推進体制モデル事業第5回専門家チーム会議に出席（鳥海）
 1月 23日 教育実践総合センター研究紀要に係る業者打ち合わせ（山下）
 1月 27日 山梨県都市コミュニティ研究成果展開事業遠隔教育分科会に係る打ち合わせ・調査を下部町・2月3日・17日 立下部中学校で行う（成田）
 ・3月9日・23日

1月 28日 自己点検・評価委員会（特別会議室にて，林）
 1月 30日 附属小学校公開研究会 5年生「道徳」助言（鳥海）

2月 5日 地域貢献教育研究会（教育実践総合センター会議室にて，五味・林）
 2月 5日 附属小学校における教育相談（鳥海）
 2月 6日 山梨県特別支援教育推進体制モデル事業双葉西小学校における巡回指導（鳥海）
 2月 6日 山梨県特別支援教育推進体制モデル事業研究協力校研究発表会打ち合わせ会議に出席（鳥海）
 2月 7日 都留市小中学校PTA連合会研究集会講演「学校・家庭・地域における心の対話と教育力」（鳥海）

2月 6～7日 地域貢献教育研究会信州大学視察（五味・林）
 2月 9日 山梨大学地域貢献特別支援事業（高等学校新教科「情報」担当教員支援）の一環として教科情報の研究授業の打ち合わせを行う（教育実践総合センター会議室にて，山下・成田）
 2月 10日 増穂町教育委員会「幼稚園における障害のある幼児の受け入れや指導に関する調査研究」に係る増穂町峡南幼稚園調査研究推進地域連絡会第5回専門家チーム会議に出席（鳥海）
 2月 12日 附属小学校における教育相談（鳥海）
 2月 12日 国立大学教育実践研究関連センター協議会理事会に出席（東京学芸大学にて，鳥海）
 2月 13日 第64回国立大学教育実践研究関連センター協議会総会及び部会に出席（東京学芸大学会場参加：鳥海・山下・林・五味，SCS参加：成田）
 2月 19日 山梨県総合教育センター研究発表大会において指導・助言（山梨県総合教育センターにて，成田）
 2月 19日 平成15年度第18回実践センター教官会議
 2月 20日 山梨大学地域貢献特別支援事業の一環として情報収集（京都教育大学，鳥海）
 2月23～26日 山梨大学地域貢献特別支援事業の一環として情報収集（琉球大学他，林）
 2月 24日 山梨大学地域貢献特別支援事業（高等学校新教科「情報」担当教員支援）の一環として教科情報の研究授業を行う（甲府城西高等学校にて，山下・成田）
 2月 24日 白根東小学校における教育相談（鳥海）
 2月 26日 山梨県「特別支援教育推進体制モデル事業」研究協力校発表会並びにシンポジウムパネリストとして参加（鳥海）
 2月 27日 平成15年度第1回教育実践総合センター運営委員会

3月 3日 教育実習事前指導（林）
 3月 3日 増穂町峡南幼稚園調査研究推進地域連絡会報告書打ち合わせ会議に出席（鳥海）
 3月 4日 実践教育運営委員会第7回共同研究会（附属中学校校長室にて，鳥海・林）
 3月 6日 信州大学教育実践総合センター『教職経験者10年研修』研究会」出席（五味・鳥海・林）
 3月 8日 附属校のための学内カウンセラーチーム第4回会議に出席（鳥海）
 3月 9日 山梨県特別支援教育推進体制モデル事業調査研究運営委員会・専門家チーム合同会議に参加（鳥海）
 3月 10日 増穂町教育委員会「幼稚園における障害のある幼児の受け入れや指導に関する調査研究」に係る増穂町峡南幼稚園調査研究推進地域連絡会・専門家チーム合同委員会に参加（鳥海）
 3月 11日 平成15年度第19回実践センター教官会議
 3月16～18日 山梨県総合教育センター研修主事による集中講義「授業研究実践論」（林）
 3月 17日 第3回教育臨床研究会。「特別支援教育における家庭学習（3）算数の家庭学習の指導法について」（鳥海）

山梨大学教育人間科学部
附属教育実践総合センターニュース 第12号
THE CENTER NEWS No.12 2004.
The Center for Educational Research,
Faculty of Education and Human Sciences
University of Yamanashi

山梨大学教育人間科学部
附属教育実践総合センター
代表者 井上 範夫
〒400-8510 甲府市武田四丁目4-37
TEL 055-220-8325 FAX 055-220-8790
e-mail : jissen@sazanka.aj3.yamanashi.ac.jp

発 行 2004年3月15日